

IKASUMACHI 土浦

川崎薫(班長)、川西勇輔(副班長)、赤西祐里奈、神谷健太、米今絢一郎

TA：金祥生

1. 分野別の現状

1.1 将来人口等

平成27年4月1日時点での土浦市の人口は144,532人である。

コーホート要因法を用いて20年後の2035年（平成47年）4月1日時点の土浦市の人口を推計した。その結果、人口は135,341人となった。内訳は男性が67,228人、女性が68,113人である。

2015年4月1日時点の人口と2035年4月1日時点の推計人口を比較すると、生産年齢人口は10.3%減少する一方で、高齢者は8.9%増加している。

図1、図2から、人口ピラミッドのつぼ型が進行し、少子高齢化が進んでいることがわかる。

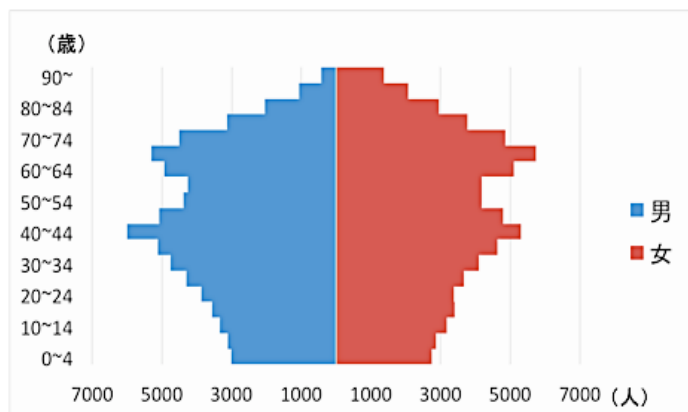


図1 2015年4月1日時点の人口ピラミッド
(出典：土浦市HP)

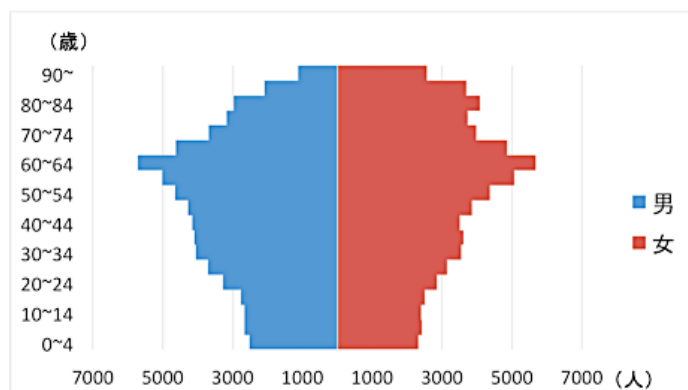


図2 2035年4月1日時点の人口ピラミッド
(出典：土浦市HP)

1.2 産業

1.2.1 農業

土浦市はれんこん栽培に適した低湿性水田地帯で、古くかられんこん栽培が行われ、現在ではれんこんの生産量は全国第1位となっている。

近年の農家人口の減少と経営耕地面積の減少を受け、土浦市は「人・農地プラン」を通じて、農地の貸し借り（結びつき）を進め、地域内の農地の有効活用と農地利用の効率化を進めている。また、「耕作放棄地解消計画」により、地域の実情に即した耕作放棄地の再生・利活用の取り組みを、農業生産者や関係機関の協力を得ながら進めている。その結果、農家人口・経営耕地面積ともに減少が抑制された。

1.2.2 工業

平成20年工業統計調査によると、事業所数187社、従業者数12,312人、製造出荷額8,933億円で、過去3年間を比較すると、事業所数及び従業者数・製造品出荷額とも増加を示している。

土浦市内の主な工業団地としては、テクノパーク土浦北、東筑波新治工業団地、おおつ野ヒルズがある。

工業団地での主な取り組みとしては、企業立地に関わる優遇措置として、工業系用途地域及び東筑波新治工業団地に事務所等を新增設した法人に、固定資産税の相当額を奨励金として3年間交付している。進出している企業は、(株)ノーリツ、三協フロンティア(株)、東栄化成(株)等がある。

1.2.3 商業

1999年以降、事業所数、商品販売額は減少傾向にある。

2009年5月にイオンモール土浦が、続いて2009年9月に阿見アウトレットがオープンしたが、2013年2月にはイトーヨーカドー土浦店が、2015年1月にはSUNPAL荒川沖店が相次いで撤退した。郊外型ショッピングモールが進出したことにより駅前中心地の空洞化やモール505などの商店街のシャッター街化が発生した。

1.3 交通

土浦市から東京までJR常磐線を使うことで、特急の場合約40分、特別快速の場合約60分、普通の場合約70分で行き来することができる。また、土浦駅、荒川沖駅、神立駅の年間乗降者数（1日平均）はそれぞれ16,236人、8,391人、5,495人となっている。

土浦市内における分担率は約9%である。

写真1は、現地調査に行った際に撮影したものである。多くの人を利用する土浦駅のバスターミナルの案内図だが、初見の人にとって非常に分かりづらいと感じた。



写真1 土浦駅西口バス乗り場案内 (10月23日撮影)

図3から、新治地区はバスの路線が通っていない交通空白地域、神立駅から半径300m以上の地域はバスが通っていても平均して1本/30分未満であり交通不便地域であるといえる。公共交通機関の徒歩圏カバー率は7割だが、交通空白地域や交通不便地域が広く存在しているというのが現状である。

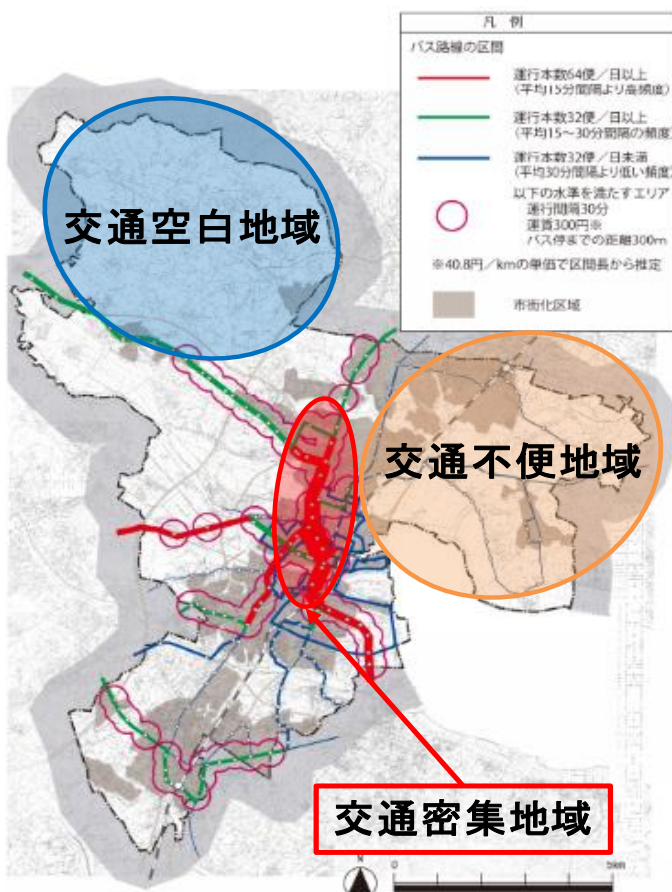


図3 市民の要望を満たす路線バスサービス水準の地区
(出典：土浦市/公共交通体系の基本理念、基本方針と目標)

1.4 治安

図4から土浦市の刑法犯における犯罪率は、平成20～26年の7年間で平成23年以外茨城県内1位であることが分かる。

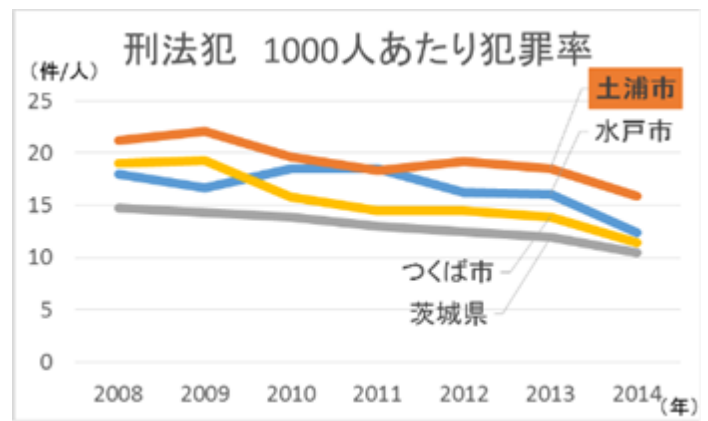


図4 1000人あたり犯罪率 (出典：茨城県警)

土浦市では平成26年度3月現在、168町内で約7000名の市民による自主防犯活動が行われている。土浦市内の自主防犯組織は町内会単位で行われており、結成率は県内で最多である。

2. 分野別課題

2.1 産業

2.1.1 農業

課題は、前述のプラン・計画によって減少が抑制された農家人口・耕地面積の現状維持および、現在存在する耕作放棄地・空地の活用方法である。

2.1.2 工業

現在企業の誘致を進めているおおつ野ヒルズでの労働力の確保が考えられる。その他の地域での現状維持である。従業者数は増えているが生産年齢人口はこの先減少するため、労働力の確保が課題になると考えられる。

2.1.3 商業

駅前ビルの廃墟化によって治安の悪化が懸念される。また、空き店舗の管理・有効活用についても考えていく必要がある。

2.2 治安

県内で最も高い刑法犯の犯罪率の減少が課題である。中心市街地の空洞化による廃墟の増加や駅前駐輪場不在による不法駐輪を改善していくことが必要だと考える。

2.3 交通

渋滞の恒常化など、道路の改善は既に限界だと考えられる。バスターミナルの案内をわかりやすくする、バス路線をわかりやすくするなど、バスを利用しやすくすることでバスの利用を促進する必要がある。また、郊外部の交通空白地域、交通不便地域を改善する必要がある。

3. 地区ごとの現状・課題

3.1 新治地区

新治地区は、旧新治村が2006年に土浦と合併し、現在

の地区となった。朝日展望公園や小町ふれあい広場などの観光施設がある。また、当該地区には筑波東新治工業団地があるが、分譲は全て完了している。

ヒアリング調査を行ったところ、「新治のよいところはこの自然だ」という回答が得られたように、豊かな自然が特徴である。

少子高齢化が進むことで農業従事者の減少が予想される。これから先、高齢者が中心の農業では担い手の不足により耕作放棄地が増えていくことが懸念される。

3.2 北部地区

北部地区にはJR常磐線神立駅があり、北部地区の交通の拠点となっている。また、協同病院がおおつ野に移転し、2015年の秋に開院する予定があることから、多くの人が訪れる可能性にある地区だと考えられる。当該地区には神立工業団地があるが、完売状態となっている。神立駅西側周辺には、アジア系の外国人が多く住んでいる。

土浦市多文化共生推進プラン実施報告書によると、土浦市には、言葉の問題を抱えている外国人が多い。また、外国人の79.4%は日本人との交流を求めているという。

3.3 中央地区

中央地区はJR常磐線土浦駅があり、土浦市の中心市街地となっている。土浦城址が整備された亀城公園などの歴史的な街並みや、土浦駅の近くには独特の雰囲気を持つモール505がある。また、10月上旬には土浦花火大会が開催され、市外から多くの人が足を運ぶ市内最大の観光イベントとなっている。

スポーツの面では、霞ヶ浦でヨットハーバーがあり、マリンスポーツを楽しむことができる。観光の面では、市外から来る人々の半数が目的とする土浦花火大会を毎年開催している。

中心市街地に立地するモール505は現在、空き店舗が多く人通りは多くない。モール505では、年中無休の大型ショッピングモールに集客力で勝ち活気を得ることは厳しいと考えられる。

また、この場所はイベント会場となることが多い。

3.4 南部地区

南部地区は、市内で一番南の位置し、東京に一番近いJR常磐線荒川沖駅がある。市内には、家族連れなどでにぎわう霞ヶ浦総合公園がある。

荒川沖駅を中心に、あまり治安がいいとは言えず、周辺の商業施設の撤退が原因の一つと考えられる。また、ヒアリング調査から、土着の人が多く住んでいることが分かった。

4. 目標都市像の設定

土浦市にはモール505や豊かな自然など、今も様々な資源がある。それらを活かすとともに、外国人や市民、大学生など市の内外を問わず人々の力を活かしていくことで、土浦を「最高にイカすまち」とすることを目標

とする。

5. 分野別構想

各分野について目標を設定する。

農業「農地がある風景を維持した都市へ」

交通「交通空白地をなくし公共交通が使い易い都市へ」

商業「多くの市民が集まり消費が促進される都市へ」

生活「住環境を改善し快適に暮らせる都市へ」

市民「様々な市民が個性を生かして暮らせる都市へ」

6. 将来人口フレーム

コーホート分析より、2035年の土浦市の推計人口は135,341人と推測される。目標を達成することで2035年までの人口減少を約5,000人に抑え、約140,000人とするを見込む。

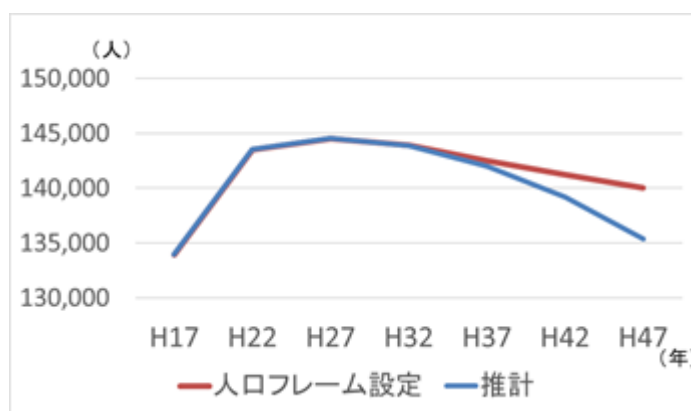


図5 将来人口フレーム設定

7. 地区別課題・構想

7.1 新治地区

少子高齢化が進むことで農業従事者の減少が懸念される。これから先、高齢者が中心の農業では耕作放棄地が増えていくことが懸念される。若者が農業に関わり、自然と農業を支える地区とすることを、新治地区の構想とする。

7.2 北部地区

北部地区は、アジア系の外国人が多い地区である。そのことから、北部地区は外国人との国際交流の場になると考えられる。外国人と共存することのできる国際交流地区とすることを、北部地区の構想とする。

7.3 中央地区

土浦駅を中心に、市内で最も栄えている地域といえる。現在、年間を通して多くの行事やイベントが企画、開催されている。イベントだけでなく、中心市街地として常に活気のある地区としていくことを、中央地区の構想とする。

7.4 南部地区

南部地区は、荒川沖駅があることから、市内で最も近

い地区といえる。荒川沖駅周辺でのヒアリング調査の結果、住環境に改善の余地があると考えられます。東京に近いという環境を活かし、快適に暮らせる街にすることを南部地区の構想とする。

8. 提案

前述の分野別構想に基づき、新治地区は農業を、北部地区は市民を、中央地区は商業を、南部地区は生活を中心とした提案を行う。それらを支える形で全体として交通に関する提案を行う。

8.1 交通

- (1) 鉄道、バス路線、観光地、商店、公共施設を一度に網羅したマップの作成による、回遊性の向上
- (2) 日中に余ったバスを活用し、市中心部と郊外の国道沿いロードサイドショップ、イオンモールを廻る路線を大幅に見直すことによる買い物の利便性の向上
- (3) 乗合タクシーの拡充、利用制限の撤廃による交通不便地域の解消
- (4) 駅バスターミナルを活用し、土浦駅を中心としたバス路線のハブ&スポーク（同時発着）化を行うことによるバスの乗り換え利便性の向上

8.2 新治地区

- (1) 筑波大生による農業アルバイト
現在、高齢化および人口の減少を抑制するのは相当に困難である。しかし、国立大学である筑波大学の学生数が大幅に減少する可能性は低いと考えられる。そこで、筑波大学で農業のアルバイトを募集し、高齢の農家に派遣することを提案する。これにより、学生は農業体験と給与を、農家は若い労働力を得ることができる。
この提案を行うことで、「若者が高齢者を支え、農地のある風景を維持したまち」にする。

8.3 北部地区

北部地区では、外国人の存在と外国人の文化を活かし国際交流を推進するために、短期プランと長期プランに分けて提案を行う。

【短期プラン】

- (1) 外国人の文化（食文化など）を自慢するイベントの開催
この場を設けることで、外国人と市民が関わる足がかりを作る。

【長期プラン】

- (2) 外国人の暮らしをサポートできる体制づくり
外国人の多さを住民や市外の人にアピールすることで、国際交流等に興味を持つ人を土浦市に呼び込むことで、外国人の生活をサポートできる体制を整える。
- (3) 地区内のグローバル教育の推進への外国人の参加
土浦市に住む外国人に、学校で特別授業を行ってもら

うことで、子どもに対するグローバル教育を推進することができると考えられる。

これらの提案を行うことで、「外国人と市民が共存し、交流を目的として人が来れるまち」にする。

8.4 中央地区

(1) モール505の活用

JR常磐線沿線という地の利を活かし、県内に事業所を持ちたい、または県内の企業やNPOなどの団体を空きテナントに誘致する。また、空きテナントを宿泊施設として活用することも検討する。

(2) プロ野球独立新規参加チームの誘致

土浦市内のスポーツ少年団全60団体中21団体は野球を行っている。また、全国的な高校野球の名門である常総学院がある。このことから、土浦市は野球への関心が高いと考えられる。

元NPB選手をチームに引き込むことで、市の知名度・集客力の向上を図る。また、プロ野球選手になりたい地元出身の若者を引き入れることで、チームが地域に密着しやすい環境を醸成する。

8.5 南部地区

(1) 花を植えることによる雰囲気改善

荒川沖駅の駅前の空き店舗が非常に多く、またごみの不法投棄などが問題となっており、雰囲気が良くない。そこで、土着の人を中心とした現在あるコミュニティを活かし、街中に花を置くことで通りの雰囲気を改善することで住民同士の結びつきを強めながら、歩きやすい雰囲気の良いまちとすることを提案する。

参考文献

- ・土浦市HP
<http://www.city.tsuchiura.lg.jp/index.html>
- ・統計つちうら
<http://www.city.tsuchiura.lg.jp/page/dir001548.html>
- ・いらすとや
<http://www.irasutoya.com/>
- ・土浦市多文化共生推進プラン 基礎調査業務 実施報告書 H26 3月
http://www.city.tsuchiura.lg.jp/data/doc/1397538449_doc_14_0.pdf
- ・土浦市 - 公共交通体系の基本理念、基本方針と目標
http://www.city.tsuchiura.lg.jp/data/doc/1250925181_doc_34.pdf
- ・イーグルバス-交通政策審議会交通体系分科会 地域公共交通部会 <http://www.mlit.go.jp/common/001016941.pdf>
- ・耕作放棄地解消計画
<http://www.city.tsuchiura.lg.jp/page/page002673.html>